

# 令和4年度 徳島市上八万中学校 総括評価表

		自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指数と活動計画		評価		学校関係者の意見	
学力向上	主体的に粘り強く学習に取り組む生徒の育成	<b>評価指数</b>	<p>○「今日のめあて」を必ず板書し、本時の目標を確認している。</p> <p>○授業の終わりに本時の振り返りの時間をとっている。</p> <p>○深い理解や考えの形成・再構築を促すペア・グループ活動等を行っている。</p> <p>○ICT活用、板書、ノート指導、発問の仕方等に工夫と改善を加えている。</p> <p>○校内研修を実施し、授業力向上に努めている。</p> <p>○指導と評価の一体化を図り、学習評価を適切に行っている。</p> <hr/> <p>○GIGAスクール構想の趣旨を全教職員が共通理解している。</p> <p>○個人端末を活用した授業が展開されている。</p> <p>○個人端末を家庭での学習に活用させている。</p> <hr/> <p>○全体計画に基づき、組織的・計画的にキャリア教育に取り組んでいる。</p> <p>○職場体験や保育実習等の体験的な活動を効果的に取り入れている。</p> <p>○外部講師等を招いて職業講話等を実施している。</p> <p>○今の学びを社会や人生と結びつけ、学ぶことの意味を考えさせている。</p>	<b>評価指数の達成度</b>	<b>総合評定</b>	<p><b>〈自己評価結果について〉</b>  <b>A適切である 60.0%</b>  <b>B概ね適切である 40.0%</b>  <b>C適切でない 0.0%</b></p> <p>生徒たちも落ち着いて学習できていると感じる。</p> <p>いろいろな研修や体験によりそれぞれのスキルが伸びてきているのではないかと感じている。</p> <p>アンケートではでてこないこともあるのではないかと感じている。</p> <p>個人端末の利用環境が整っておらず全員一斉に使用できないとの意見を聞いている。</p> <p><b>〈今後の改善策について〉</b>  <b>A適切である 50.0%</b>  <b>B概ね適切である 50.0%</b>  <b>C適切でない 0.0%</b></p> <p>個人差はあって当然。その見極めをお願いする。</p> <p>研修の内容が大切。子どもたちの力になるものであってほしい。</p> <p>「受けて楽しかった。世界が広がった。」というキャリア教育を継続してほしい。</p> <p>個人端末利用環境の整備の要望。家庭での利用促進。学級閉鎖時のオンライン授業。</p>	<p><b>〈課題〉</b></p> <p>① コロナ禍のため、ペア・グループ活動等の対話的な学びや職場体験や保育実習等の体験的な学習を十分に行うことができなかった。多忙な業務の中で教職員の負担を増やさずに研修の時間をどのように確保するかが課題である。</p> <p>② 家庭学習において個人端末をどのように活用させていくかが課題である。</p> <p>③ 3カ年を見通したキャリア教育を推進することができなかった。</p> <p><b>〈改善方策〉</b></p> <p>① 今年度同様に国・県・市等の通知やガイドラインを参考にし、学習活動のあり方について創意工夫を加え教育活動を行う。今後さらなる業務改善を行うとともに、効率的で実りの多い校内研修のあり方について検討を行う。</p> <p>② 先進校の取り組み等を参考に本校の活用方針を作成する。</p> <p>③ キャリア教育を軸に据えたカリキュラムマネジメントを行う。</p>
		<b>活動計画</b>		<b>活動計画の実施状況</b>	<p>(評定) <b>B</b></p> <p>(所見)</p> <p>指導と評価の一体化を図り、学習評価を適切に行うために、積極的に校内研修に取り組むことができた。</p> <p>また、ICTを適切に活用し、「わかる授業」の構築に取り組めた。</p> <p>GIGAスクール端末については、ICT支援員のサポートを受けながら積極的に活用するように取り組んだ。</p> <p>コロナ禍での制約もあったが、外部講師を招いての講演等も多数開催できた。</p>		
		①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進		校内研修で意識改革を目指した。			
		②GIGAスクール構想の実現に向けた取組の推進		学年全体で取り組めた。			
	③将来をえがく力を身につけさせるためのキャリア教育の充実	組織的な取組を行えた。					
豊かな心の育成	美しい学校づくりの推進	<b>評価指数</b>	<p>○清掃の時間、すべての教員が指導にあたっている。</p> <p>○教室や廊下などの掲示物が美しく掲示されている。</p> <p>○教室や廊下などの備品等が整理されている。</p> <p>○地域の清掃活動に参加するなどして、地域の環境美化に努めている。</p> <hr/> <p>○教科教育において人権感覚を養うよう努めている。</p> <p>○道徳教育において体験的な活動を積極的に取り入れている。</p> <p>○特別活動において自己有用感を高めるよう努めている。</p> <p>○いじめ防止基本方針に基づきいじめ防止に取り組んでいる。</p> <hr/> <p>○自分から進んで大きな声であいさつができるように指導している。</p> <p>○場に応じた適切な敬語が使用できるように指導している。</p> <p>○職員室・校長室等への入退室の仕方について指導している。</p>	<b>評価指数の達成度</b>	<b>総合評定</b>	<p><b>〈自己評価結果について〉</b>  <b>A適切である 60.0%</b>  <b>B概ね適切である 40.0%</b>  <b>C適切でない 0.0%</b></p> <p>挨拶のできる生徒が増えている。学校が美しく保たれている。</p> <p>学校を大事にする心が育っている。</p> <p>課題の②③を問題と意識していることが重要。</p> <p>美しい環境整備がされている。地域の人も大きな声で挨拶ができています。</p> <p><b>〈今後の改善策について〉</b>  <b>A適切である 50.0%</b>  <b>B概ね適切である 50.0%</b>  <b>C適切でない 0.0%</b></p> <p>地域や保護者の参加を呼びかけてほしい。</p> <p>地域の人たちの力をかりてほしい。</p> <p>人権教育が日常に生かされる工夫をしてほしい。</p> <p>生徒主導のもと教員・地域の人を巻き込んだ教育環境の整備を期待する。</p>	<p><b>〈課題〉</b></p> <p>① 生徒数の減少により、外周や特別教室などの清掃分担場所に十分な人手を配置することができなかった。</p> <p>② 人権教育で身につけた人権意識を日常の中で、いかに実践的行動に移せるかが課題である。</p> <p>③ 友達同士でふざけあっている場面などで他人を傷つけるような言葉を発する生徒もいた。</p> <p><b>〈改善方策〉</b></p> <p>① 長期休業日中などに保護者や地域の方の力を借りて、教育環境の整備を行う。</p> <p>② 人権教育を進めるにあたり、問題解決的な学習や豊かな体験活動を取り入れるなど多様な工夫を行う。</p> <p>③ 教職員がその場その場で適切に指導するとともに、生徒同士がお互いに差別的な発言や人を傷つけるような発言を許さない雰囲気作りを行う。</p>
		<b>活動計画</b>		<b>活動計画の実施状況</b>	<p>(評定) <b>B</b></p> <p>(所見)</p> <p>美しい教育環境の構築に向けては、生徒と教職員が一体となって美化・清掃に取り組むことができた。</p> <p>人権教育を中心として豊かな心の育成に取り組み、自他を大切に心の涵養が図られている。</p> <p>毎朝、大きな声であいさつができており、場に応じた言葉遣いもできている。</p>		
		①美しい教育環境の構築		全校体制での取組に努力した。			
		②美しい心を育む教育の推進		全校体制で取り組めた。			
	③美しい言葉や態度を身につけさせるための指導の充実	全ての教育活動で推進した。					
働き方改革	教育力の向上と持続可能な学校づくりのための働き方改革の推進	<b>評価指数</b>	<p>○教職員が自身の勤務時間を把握し、自己管理を行っている。</p> <p>○教職員が費用対効果、時間対効果を考えた効率的な活動を進めている。</p> <p>○月平均時間外在校時間が45時間以内に抑えられている。</p> <p>○年次有給休暇が年間15日以上取得されている。</p> <hr/> <p>○統合型校務支援システム・グループウェアを適切に活用している。</p> <p>○会議の時間短縮が図られている。</p> <p>○行事の精選や統合が行われている。</p> <p>○校務の効率化等が図られている。</p> <hr/> <p>○平日に1日、土日に1日の休養日が設けられている。</p> <p>○平日で2時間程度、土日で3時間程度の活動時間が守られている。</p> <p>○定期テスト前などは、家庭学習の時間が十分確保されている。</p>	<b>評価指数の達成度</b>	<b>総合評定</b>	<p><b>〈自己評価結果について〉</b>  <b>A適切である 40.0%</b>  <b>B概ね適切である 0.0%</b>  <b>C適切でない 60.0%</b></p> <p>全教職員が共感できる方向性を相談していく。</p> <p>部活動もあり教員の負担が大きいと思う。</p> <p>なかなか進んでいないのが現状だとわかった。</p> <p>今までどおりのことを行い、時間外削減や休暇促進は困難である。部活動の地域移行を通達待ちでなく行動してほしい。</p> <p><b>〈今後の改善策について〉</b>  <b>A適切である 50.0%</b>  <b>B概ね適切である 25.0%</b>  <b>C適切でない 25.0%</b></p> <p>難しいことだと思う。</p> <p>何とかしようと努力しているのがわかる。</p> <p>さらなる意識改革に取り組んでほしい。</p> <p>PTA・地域にも課題を提示し、情報公開が必要である。</p>	<p><b>〈課題〉</b></p> <p>① 教職員の年代によってワークライフバランスに対する考え方に差がある。</p> <p>② 統合型校務支援システムやグループウェアを有効に活用することができなかった。働き方改革の視点での学校行事の見直しは十分ではなかった。</p> <p>③ 部活動の地域移行について国・県・市の動向を注視し、本校においてもできることから検討に入る必要がある。</p> <p><b>〈改善方策〉</b></p> <p>① 働き方改革によって教育の質の向上と持続可能な学校づくりを行うという認識の共有化を図る。</p> <p>② 統合型校務支援システムやグループウェアの活用についての校内研修を実施する。学校行事や校務について、働き方改革の視点で抜本的な見直しを行う。</p> <p>③ 生徒・保護者、地域、教職員の状況を十分に考慮し、長期的な展望で計画的に部活動のあり方について議論する場を設ける。</p>
		<b>活動計画</b>		<b>活動計画の実施状況</b>	<p>(評定) <b>C</b></p> <p>(所見)</p> <p>啓発により教職員の意識改革はある程度進んだ。また、できることから業務改善にも取り組んだ。しかし、業務量を大きく削減することはできず、月平均時間外在校時間や年休取得日数については昨年度よりは改善傾向にあるものの、年度当初の目標達成は難しい状況である。</p> <p>部活動の活動方針を遵守し、適切な部活動の運営が図られた。</p>		
		① 教職員の意識改革		計画的に啓発が行えた。			
		② 業務改善の推進		組織的な取組を行えた。			
	③ 部活動の適正化	全職員共通理解の元行えた。					

総合評価の基準    **A** 目標を上回っている (方策を十分実践している)    **B** 目標をほぼ達成している (方策をほぼ実践している)    **C** 目標を下回っている (方策をあまり実践していない)